

血統および出荷月齢とモモ肉の脂肪交雑との関係

○古川智博・山口正洋¹⁾

(佐賀上場営農セ・¹⁾佐賀県東松浦農改セ)

【目的】

現在の枝肉評価は、枝肉切開面であるロース肉の脂肪交雑に大きく依存している。しかし、高級牛肉の消費が伸び悩む中、ロース以外の部分肉が枝肉単価を決定する要因になっている。ところが、部分肉のうち最も重量のあるモモ肉に脂肪交雑の少ない枝肉が多く、生産者及び食肉業者にとって大きな損失となっている。

そこで、モモ肉の脂肪交雑向上に関する知見を得るために、ロース芯の脂肪交雑（BMS）や血統、出荷月齢がモモ肉の脂肪交雑に及ぼす影響を調査した。

【材料および方法】

平成 24 年 1 月から平成 25 年 3 月に佐賀県内で生産し肥育・出荷した 1,049 頭についてモモ肉の格付けと血統・出荷月齢についての関連を調査した。

なお、出荷先の性別のばらつきから、雌は神戸へ出荷された 529 頭、去勢は大阪へ出荷された 520 頭のデータを用いた。

血統は種雄牛ごとに但馬系（北平安・福栄・福安照・美津栄・安福久・安福勝・安糸福）と気高系（勝忠平・茂勝栄・第 2 平茂勝・豊茂国・安茂勝・百合茂・辰之介）に分類した。

枝肉の格付けおよびモモ肉の脂肪交雑については、各市場の枝肉格付表に記載されたデータを用いた。

【結果および考察】

1. BMS とモモ肉の関係

雌・去勢共に BMS が高くなるとモモ肉の脂肪交雑も向上する傾向にあった。また、但馬系・気高系ともに同様の傾向にあった。

2. 出荷月齢とモモ肉の関係

雌では出荷月齢が伸びるとモモ肉の脂肪交雑も向上する傾向にあり、特に但馬系の雌でその傾向が高かった（図 1、2）。

去勢では出荷月齢はモモ肉の脂肪交雑には影響しない傾向にあった（図 3）。

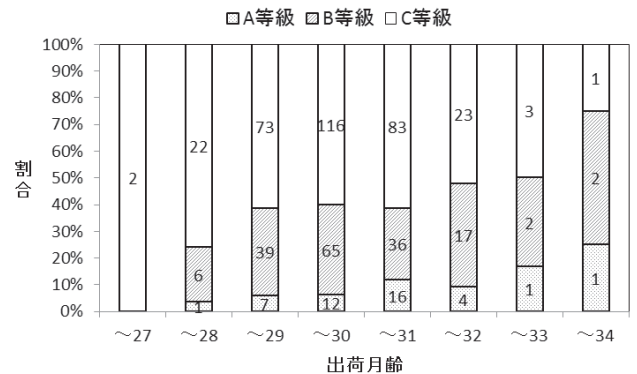


図 1 出荷月齢とモモ肉の脂肪交雑の関係 (神戸出荷 雌 ※数字は出荷頭数)

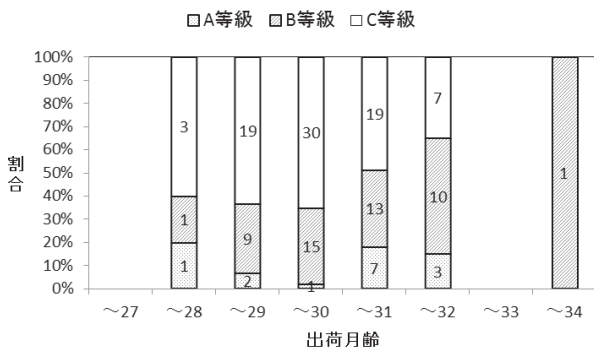


図 2 出荷月齢とモモ肉の脂肪交雑の関係 (神戸出荷 但馬系雌 ※数字は出荷頭数)

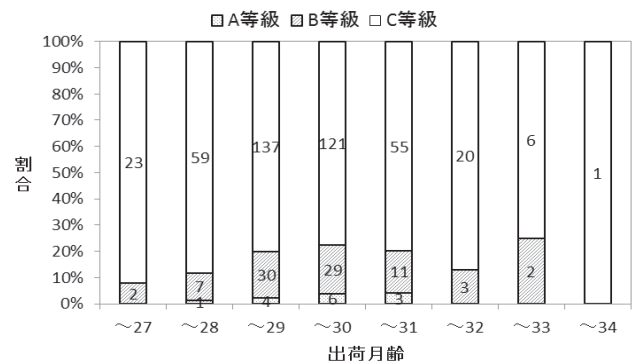


図 3 出荷月齢とモモ肉の脂肪交雑の関係 (大阪出荷 去勢 ※数字は出荷頭数)